

# 「平成29年度 全国学力・学習状況調査結果」の概要

## 1 全国学力・学習状況調査の実施状況

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
※H19年度調査開始。H22・24年度は抽出調査、他年度は悉皆調査。  
(震災により、H23年度は未実施、H28年度は一部未実施。)

(2) 学力調査の実施日 平成29年4月18日(火)

(3) 岡山県の実施人数(国・公・私立の合計) <参考: 国 約213万人>

	小学校【対象: 第6学年】	中学校【対象: 第3学年】
児童生徒数	16,201人 (15,952人)	16,987人 (16,241人)

※ 数値は、調査日に実施した国・公・私立学校の児童生徒数。括弧内の数値は、公立学校の児童生徒数。

## 2 学力調査の結果(過去5年間の推移)

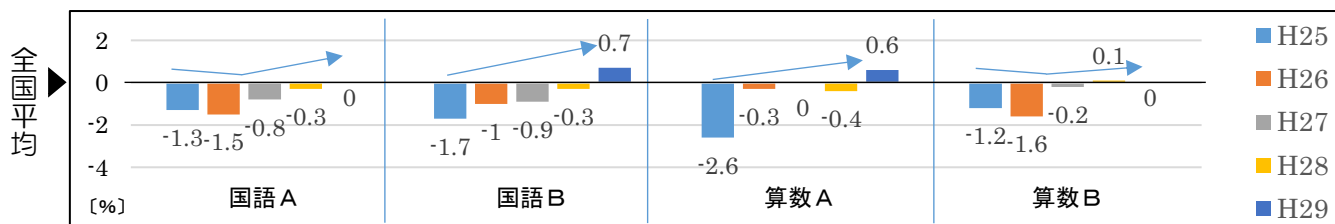
- 国語、算数・数学のA問題は、主として基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題、B問題は、主として知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。
- 下表中の「差」は、全国と岡山県の平均正答率の差。順位は、公表された整数値に基づいて算出。

### 【小学校】

(1) 平均正答率 [%] 【H29 中段の「※県」は、岡山市を除く正答率を示す。】

年度		国語 A			国語 B			算数 A			算数 B			国算計	
		正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	差	順位
H29	全県	74.8	0.0	21	58.2	0.7	15	79.2	0.6	19	45.9	0.0	12	1.3	19
	※県	74.3	-0.5		57.4	-0.1		79.2	0.6		44.9	-1.0		-0.3	
	全国	74.8			57.5			78.6			45.9				
H28	県	72.6	-0.3	27	57.5	-0.3	29	77.2	-0.4	27	47.3	0.1	15	-0.9	25
	全国	72.9			57.8			77.6			47.2				
H27	県	69.2	-0.8	34	64.5	-0.9	31	75.2	0.0	21	44.8	-0.2	23	-1.9	28
	全国	70.0			65.4			75.2			45.0				
H26	県	71.4	-1.5	38	54.5	-1.0	32	77.8	-0.3	29	56.6	-1.6	38	-4.4	38
	全国	72.9			55.5			78.1			58.2				
H25	県	61.4	-1.3	33	47.7	-1.7	35	74.6	-2.6	45	57.2	-1.2	30	-6.8	38
	全国	62.7			49.4			77.2			58.4				

(2) 全国平均と岡山市を含む県全体の平均の差の推移

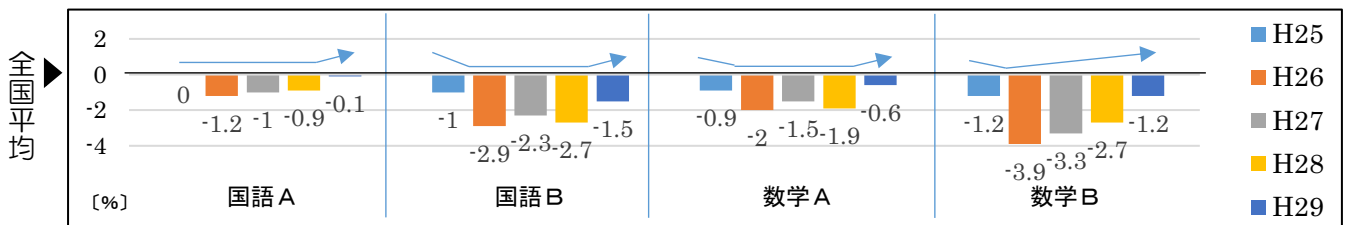


【中学校】

(1) 平均正答率〔%〕【H29 中段の「※県」は、岡山市を除く正答率を示す。】

年度	国語 A			国語 B			数学 A			数学 B			国数計		
	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	差	順位	
H29	全県	77.3	-0.1	27	70.7	-1.5	34	64.0	-0.6	23	46.9	-1.2	29	-3.4	34
	※県	77.6	0.2		71.0	-1.2		64.2	-0.4		47.1	-1.0		-2.4	
	全国	77.4			72.2			64.6			48.1				
H28	県	74.7	-0.9	37	63.8	-2.7	42	60.3	-1.9	36	41.4	-2.7	40	-8.2	41
	全国	75.6			66.5			62.2			44.1				
H27	県	74.8	-1.0	38	63.5	-2.3	43	62.9	-1.5	39	38.3	-3.3	43	-8.1	41
	全国	75.8			65.8			64.4			41.6				
H26	県	78.2	-1.2	39	48.1	-2.9	43	65.4	-2.0	41	55.9	-3.9	45	-10.0	42
	全国	79.4			51.0			67.4			59.8				
H25	県	76.4	0.0	30	66.4	-1.0	34	62.8	-0.9	32	40.3	-1.2	31	-3.1	32
	全国	76.4			67.4			63.7			41.5				

(2) 全国平均と岡山市を含む県全体の平均の差の推移



○小学校においては、全ての科目で全国平均と同等以上となり、基礎・基本の徹底を図るとともに、習得した知識を活用する授業改善に取り組んできた成果が表れたと言える。

○中学校においては、各科目の全国平均との差が-1.5~-0.1〔%〕となり、昨年度に比べ全国平均との差が縮小しているが、依然として全国平均を下回っており、今後も引き続き、基礎・基本の徹底に向けた取組を粘り強く継続する必要がある。

3 学力調査の推移【同一集団の推移：H26 年度小学 6 年→H29 年度中学 3 年（岡山市を含む県全体）】

年度	国語 A			国語 B			算数 A			算数 B			国数計		
	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	差	順位	
H26	県	71.4	-1.5	38	54.5	-1.0	32	77.8	-0.3	29	56.6	-1.6	38	-4.4	38
	全国	72.9			55.5			78.1			58.2				

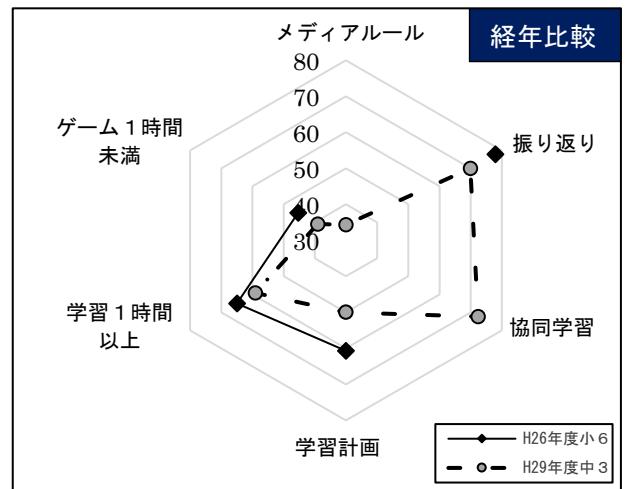
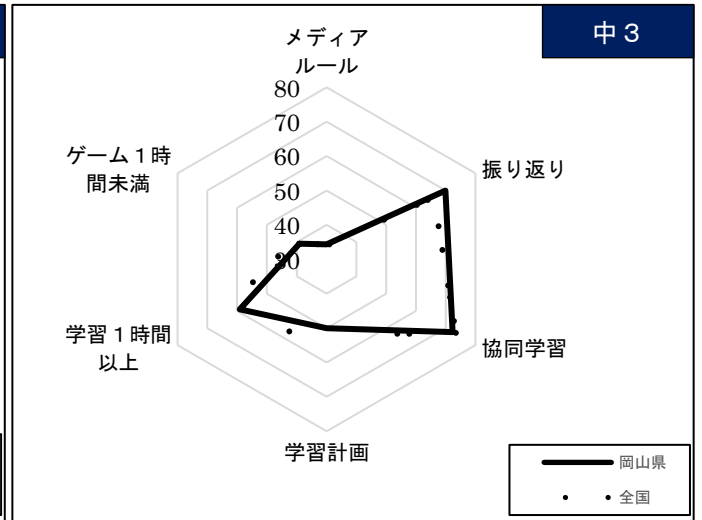
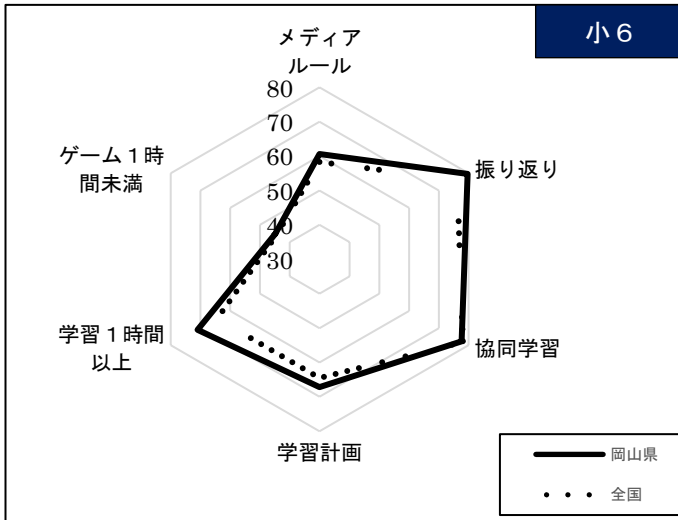
年度	国語 A			国語 B			数学 A			数学 B			国数計		
	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	差	順位	
H29	県	77.3	-0.1	27	70.7	-1.5	34	64.0	-0.6	23	46.9	-1.2	29	-3.4	34
	全国	77.4			72.2			64.6			48.1				

平成 26 年調査時の小学 6 年生が、今年度の中学 3 年生であることから、同一集団の推移を見ると、H26 時点で-4.4〔%〕あった全国平均との差を、今年度調査で1.0〔%〕縮めており、小学校段階の学力が中学校で維持されていると言える。

### 3 学習状況調査の結果

- 児童生徒質問紙は、児童生徒一人一人が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。
- 学校質問紙は、各校の代表者が回答し、学校における指導方法に関する取組や学校における人物・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

各学年の学習状況調査結果 [単位：％]



**【質問項目】**

- ・「テレビやゲームの時間などを家の人と決めているか」※
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」
- ・「授業で、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたか」※
- ・「家で、自分で勉強の計画を立てて勉強しているか」
- ・「平日、1日当たり、どのくらいの時間、勉強をしたか」
- ・「平日、1日当たり、どのくらいの時間、ゲームをしたか」

※の質問項目は、平成26年度以降に加えられた項目のため、経年比較はできない。

○小学校においては、岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業改善が進んできた結果、学習内容を自分で振り返る活動が全国平均を上回るとともに、基礎・基本の定着をねらった日々の家庭学習が徹底しており、自主学習も含めて家庭で学習に取り組む習慣が確立できてきている。

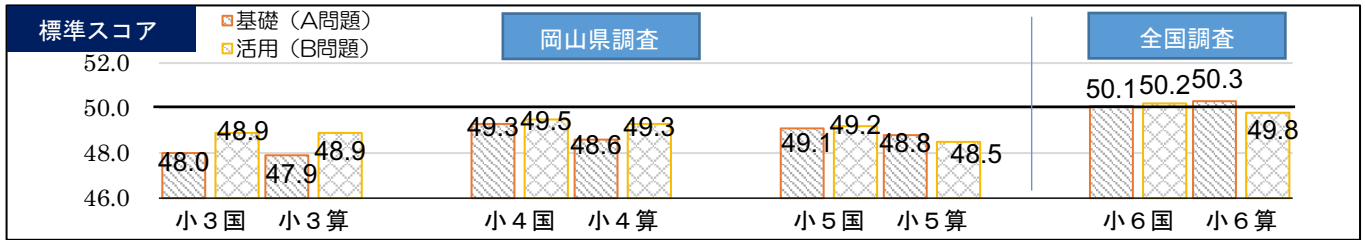
○中学校においても、小学校同様、岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業改善が進み、学習内容を自分で振り返る活動は全国平均を上回っている。一方で、家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合が全国平均を下回り、ゲームを「3時間以上」「1時間以上」行うとそれぞれ回答した生徒の割合は全国平均を上回り、小学校段階で培った家庭での学習習慣と生活習慣が維持できておらず、改善に向けた取組を更に促進していく必要がある。

## 4 全国及び岡山県学力・学習状況調査結果から見えること

### 【学力調査結果】

標準スコア 全国平均の値を 50 としたときの相対的な位置を示す指標のこと

#### 【小学校】



#### ■書くこと (平成 28 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
B 2二 (2)	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、〈表2〉の結果を基に書く	62.8	64.2	-1.4

#### (平成 29 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
B 2二 (2)	グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことよさについてどのように考えているかについて書く	72.4	69.2	3.2

#### ■割合 (平成 28 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
A 9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	44.5	50.9	-6.4

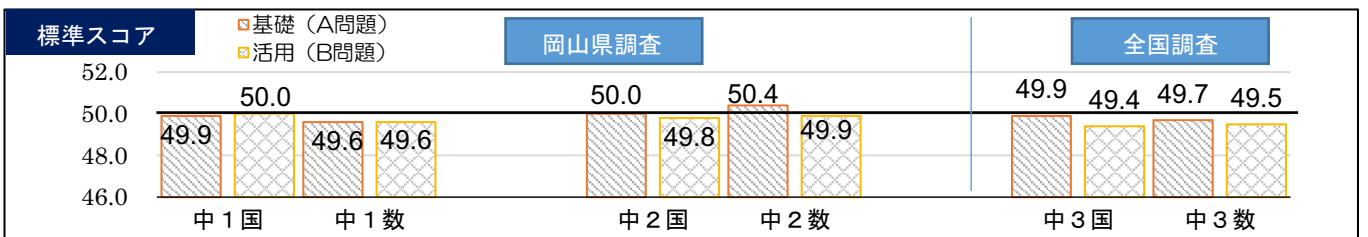
#### (平成 29 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
B 5 (1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ	63.5	65.0	-1.5

学力調査結果からは、低学年段階の学習定着度に課題があり、低学年からのつまずきを丁寧に解消する重要性が改めて確認できた。

また、過去の調査において課題であった国語の「書くこと」などは、今回改善が見られたが、算数の「割合」などは、全国及び県調査においても改善が十分でないことから、低学年段階からの系統的な指導が必要である。

#### 【中学校】



#### ■書くこと (平成 28 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
B 3三	図鑑の説明で、よく分かるようになった部分と、その部分について分かったことを書く	52.6	57.7	-5.1

#### (平成 29 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
B 3三	アンケートの質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く	65.7	68.8	-3.1

#### ■関数 (平成 28 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
A 10 (1)	一次関数の表からグラフを選ぶ	58.4	61.9	-3.5

#### (平成 29 年度)

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
A 11 (2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	51.6	56.0	-4.4

学力調査結果からは、学年が上がるにつれて学習状況が悪化しているため、小学校段階の様に学年が上がるに連れて力を伸ばすことができていない。国語の「書くこと」や、数学の「関数」「図形」は、十分に改善しておらず、繰り返し指導することや、一人一人のつまずきを解消する支援の更なる充実が必要である。

## 5 これまでの取組の成果と課題

### 【学力向上担当者の活用】

- 学力向上担当者に対し、研修会や「学力向上担当者通信」を通じて、重点的に取り組むべきポイントを示したり、全校で組織的に調査結果を分析し、つまずきの改善を図る手法について助言したりした結果、担当者が学校の中核として機能し始めている。

### 【基礎・基本の定着を図る取組の推進】

- 全校で漢字や計算などの定着を図る取組を組織的に行ったり、「放課後学習サポート事業」等を活用してつまずきの解消を図ったりするなど、児童生徒の課題に対応した反復練習の機会を増やす取組が進んでいる。
- 小学校低学年段階の学習定着度に課題が見られたことから、低学年からのつまずきを丁寧に解消する取組を推進する必要がある。

### 【家庭学習の改善】

- 授業改革推進リーダー・推進員による県内外の好事例の紹介や、「頑張る学校応援事業」優良実践校における効果的な取組を発信することにより、成果が上がった取組を導入する学校が増えている。
- 中学校においては、小学校で進めてきた自主学習を継承する取組や生活ノートの改善、宿題一覧ボードなどが着実に広がっているが、依然として長時間のゲームや、家庭学習時間が不十分という課題が残っている。

## 6 今後の取組

### 県教委の取組

#### 【県調査を含めた課題の分析と対策の実施】

- 県教委や教育センターの指導主事、各教科の指導教諭等から成る結果分析委員会で出題内容や結果を分析し、低学年での指導のポイントなど、課題を踏まえた指導資料等を提供する。
- 家庭学習に課題のある中学校において、家庭学習につながる授業改善の一層の促進を図るよう、小学校で「学年×10分+10分」などと決めている学習時間を基に、各学年で具体的な時間を設定することや、学習内容の定着を図る家庭学習の方法などを提示する。

#### 【個に応じた支援体制の確立】

- つまずきの解消に当たり、児童生徒一人一人の状況に応じたプリントを作成できる Web 評価支援システムの活用や、成果を上げている補充学習の取組の普及を図る。
- 秋以降に、課題が見られた設問の改善状況を確認するチェック課題を提供する。

#### 【公開授業の実施による授業改善】

- 国の学力調査官等を招聘した研究授業を県内 12 会場で実施し、国が求める学力観に基づいた授業を公開するとともに、各校における授業の質的向上を目指した授業公開等の取組を支援する。

### 各学校の取組

#### 【個に応じた指導の徹底】

- これまで県教委が作成した教材や Web 評価支援システムを効果的に活用し、当該学年の学習内容の定着状況を把握し改善を図る。特に小学校では、低学年段階から確実に課題解消が図られているかを確認する。

#### 【部活動休養日の有効活用】

- 中学校では、9月から月～金曜日の間に1日設けられる部活動休養日を活用して、つまずき解消に向けた補充学習等も取り入れ、基礎基本の定着に向け、組織的な取組を推進する。

#### 【家庭学習の充実と生活習慣の改善】

- 小学校では、短期的なサイクルで定着度を確認する課題に取り組ませることに加え、書くことで自分なりの思考を表現できる自主学習の取組を更に進める。
- 中学校では、小学校で成果の見られた自主学習や学習時間の目安の提示などの取組を継承するとともに、課題の質と量を見直し、適切に点検・評価することで生徒の学習習慣の確立を図る。
- スマホの利用時間等に関する家庭でのルールづくりを PTA と連携しながら更に推進し、学習時間を含めた家庭での望ましい生活習慣を確立する。

## 【参考】市町村別の状況

※ 学力調査の結果 平均正答率(教科別)

名称	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	75	58	79	46	77	72	65	48
岡山県(公立)	75	58	79	46	77	71	64	47
1 岡山市教育委員会	76	60	79	48	77	70	64	46
2 倉敷市教育委員会	74	58	79	45	77	70	63	45
3 津山市教育委員会	73	54	77	42	71	63	56	39
4 玉野市教育委員会	73	55	77	42	79	73	67	50
5 笠岡市教育委員会	75	55	78	43	78	69	64	46
6 井原市教育委員会	75	58	81	45	78	70	63	46
7 総社市教育委員会	76	60	81	47	78	72	65	47
8 高梁市教育委員会	76	55	79	44	81	74	67	50
9 新見市教育委員会	76	59	80	47	78	71	62	47
10 備前市教育委員会	74	59	80	46	77	70	67	49
11 瀬戸内市教育委員会	76	60	81	47	78	72	67	49
12 赤磐市教育委員会	73	53	78	43	78	71	65	46
13 真庭市教育委員会	76	59	81	46	76	73	59	44
14 美作市教育委員会	75	58	79	44	75	68	58	41
15 浅口市教育委員会	76	59	82	49	75	66	65	44
16 和気町教育委員会	70	54	74	42	72	64	59	45
17 早島町教育委員会								
18 里庄町教育委員会	74	56	77	44				
19 矢掛町教育委員会	77	58	83	50				
20 新庄村教育委員会								
21 鏡野町教育委員会	74	55	80	46				
22 勝央町教育委員会	74	54	76	45				
23 奈義町教育委員会								
24 西粟倉村教育委員会								
25 久米南町教育委員会	72	62	83	43				
26 美咲町教育委員会	74	56	75	41	78	70	63	47
27 吉備中央町教育委員会	78	59	82	46				
28 笠岡市・矢掛町中学校組合								
29 県立学校					95	94	91	82

※斜線の町村は、該当の学校が1校のため、公表の対象としない。

※県立特別支援学校(小学部)は、受検者が少数であるため、公表の対象としない。

※県立学校には、県立特別支援学校(中学部)、県立中学校・中等教育学校が含まれる。